

2019年度 日本ASEAN相互理解プログラム 開講科目一覧

科目名	担当教員	開講場所	開講期	曜日	時限	教室	単位数	配当年次	備考
東南アジア理解講座（タイの言語と文化）	タンシリトンチャイ, ウィライラック	生田	春学期	金	5	0610	2	1～4	メディア教室（タイとの遠隔授業） 定員15名 初回授業に必ず出席すること。履修希望者が定員を超えた場合は、初回授業に実施予定の課題（ショートエッセイ）の内容により、履修者を決定する。
東南アジア理解講座（タイの言語と文化）	タンシリトンチャイ, ウィライラック	和泉	秋学期	金	5	M406	2	1～4	メディア教室（タイとの遠隔授業） 定員15名 初回授業に必ず出席すること。履修希望者が定員を超えた場合は、初回授業に実施予定の課題（ショートエッセイ）の内容により、履修者を決定する。
東南アジア文化・専門集中講座（アテネオ・デ・マニラ大学）	菊地端夫	フィリピン	夏期集中			—	2	1～4	
短期東南アジア実習（タイ・ボランティア）	菊地端夫	タイ	秋学期集中			—	1	1～4	
東南アジア実習（タイ・インターンシップ）	菊地端夫	タイ	秋学期集中			—	2	1～4	

※履修方法はGLOBAL NAVI 2019（13ページ）を確認してください。

※実施されるプログラムは変更となる可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
東南アジア理解講座 (タイの言語と文化)	1～4年	春学期	2単位	生田	タンシリトンチャイ、ウライラック
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>いまや日本では、業種業態を問わずアジアとの関係が緊密になり、その重要性は今後もますます高まると考えられる。特にタイは、日系企業が多数進出していることにも見られるとおり、日本とアジアを結ぶ重要な要の国である。こうした状況の下、ビジネスパーソン、製品開発者、建築家、NGO、公務員など多くの実務分野において、現地の言語や文化に通じ、日本とアジアの懸け橋として活躍できる人材が求められている。</p> <p>本講座は、そうした日本とアジアの懸け橋たる実務型リーダーとして将来活躍することを目指し、特にタイの言語と文化について基礎的理解を身に付けることを目標にするものである。各回の講義では、タイ特有の文化及び社会を講義し、その文化や社会の背景に基づくコミュニケーション方法も紹介する。また、本講座で得た知識や情報などを自国の言語や文化と比較して類似点や相違点を考えることで理解を深める。</p> <p>本講座の目標は、タイ語会話の基礎となる発音の知識やタイの文化・社会に基づくコミュニケーション方法を身につけることにある。本講座終了時には、履修者は、上述3つの基本とタイ語の基本的な文法を身につけると同時に、基本的な挨拶・自己紹介ができるようになり、また、時間、モノの位置関係を示したり、意見・感情、経験、願望などを表したりできることが期待されている。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <ol style="list-style-type: none"> イントロダクション、タイ及びタイ語の概要 あいさつから見たタイ文化 タイ人の自己紹介 タイ人の方向感覚 タイ人と日本人の意見・感情の表現 まとめ、異文化理解の観点からタイを見るセクション 中間テスト、タイの若者のライフスタイル タイの食文化 タイ人のコミュニケーション方法 日常会話におけるタイ人の自然な口頭表現運用 まとめ、異文化理解の観点からタイ社会と生活を見るセクション タイ人の経験・願望の表現 タイ文字 a: 総まとめ、b: 試験 					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>本講義は日本語で行われるタイ発信の遠隔授業である。初心者でも受講できるが、タイ交流プログラムや交換留学生希望者等は積極的に参加してもらいたい。</p> <p>また、タイとの遠隔授業となるため、履修定員を15名とする。履修希望者が定員を超えた場合は、初回授業に実施予定の課題(ショートエッセイ)の内容により、選抜を行う。</p>					
<p>4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparation and Review)</p> <p>事前に Oh-o! Meiji クラスウェブにアップロードされた資料、特に語彙の部分を予習し、授業後には学習した語彙、表現、構文などを復習しながら語彙整理表に書いて確認しておくこと。発音及び会話の練習もしておく</p>					

<p>表現力が自然に身につく。</p> <p>また、授業中に紹介・指摘される日タイにおける文化的・言語的な共通点及び相違点について、配布資料や参考書を参照し、復習することで、日本とタイのみならず、グローバルな観点・視野も広げてもらいたい。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。(講師によるプリントや資料を配布予定)</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『タイを知るための60章 エリア・スタディーズ』綾部恒雄、林行夫 著 (明石書店)</p> <p>『デイリー日タイ英・タイ日英辞典』宇戸清治 監修 (三省堂)</p> <p>『今すぐ話せるタイ語 入門編』水野潔 著 (東進ブックス)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点 20% (クラス活動 10%、勉学態度 5%、表現力 5%) ・課題 20% ・中間テスト 25% ・試験 35%
<p>8 その他 (Other)</p> <p>本講義の受講をきっかけにタイないし東南アジアへの関心を高め、在学中に同地域へ留学するなどして、卒業後には日本とアジアを結ぶ実務型リーダーとして活躍することを目指してもらいたい。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
東南アジア理解講座 (タイの言語と文化)	1～4年	秋学期	2単位	和泉	タンシリトンチャイ、ウイライラック
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>いまや日本では、業種業態を問わずアジアとの関係が緊密になり、その重要性は今後もますます高まると考えられる。特にタイは、日系企業が多数進出していることにも見られるとおり、日本とアジアを結ぶ重要な要の国である。こうした状況の下、ビジネスパーソン、製品開発者、建築家、NGO、公務員など多くの実務分野において、現地の言語や文化に通じ、日本とアジアの懸け橋として活躍できる人材が求められている。</p> <p>本講座は、そうした日本とアジアの懸け橋たる実務型リーダーとして将来活躍することを目指し、特にタイの言語と文化について基礎的理解を身に付けることを目標にするものである。各回の講義では、タイ特有の文化及び社会を講義し、その文化や社会の背景に基づくコミュニケーション方法も紹介する。また、本講座で得た知識や情報などを自国の言語や文化と比較して類似点や相違点を考えることで理解を深める。</p> <p>本講座の目標は、タイ語会話の基礎となる発音の知識やタイの文化・社会に基づくコミュニケーション方法を身につけることにある。本講座終了時には、履修者は、上述3つの基本とタイ語の基本的な文法を身につけると同時に、基本的な挨拶・自己紹介ができるようになり、また、時間、モノの位置関係を示したり、意見・感情、経験、願望などを表したりできることが期待されている。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <ol style="list-style-type: none"> イントロダクション、タイ及びタイ語の概要 あいさつから見たタイ文化 タイ人の自己紹介 タイ人の方向感覚 タイ人と日本人の意見・感情の表現 まとめ、異文化理解の観点からタイを見るセクション 中間テスト、タイの若者のライフスタイル タイの食文化 タイ人のコミュニケーション方法 日常会話におけるタイ人の自然な口頭表現運用 まとめ、異文化理解の観点からタイ社会と生活を見るセクション タイ人の経験・願望の表現 タイ文字 a: 総まとめ、b: 試験 					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>本講義は日本語で行われるタイ発信の遠隔授業である。初心者でも受講できるが、タイ交流プログラムや交換留学生希望者等は積極的に参加してもらいたい。</p> <p>また、タイとの遠隔授業となるため、履修定員を15名とする。履修希望者が定員を超えた場合は、初回授業に実施予定の課題(ショートエッセイ)の内容により、選抜を行う。</p>					
<p>4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparation and Review)</p> <p>事前に Oh-o! Meiji クラスウェブにアップロードされた資料、特に語彙の部分を予習し、授業後には学習した語彙、表現、構文などを復習しながら語彙整理表に書いて確認しておくこと。発音及び会話の練習もしておく</p>					

<p>表現力が自然に身につく。</p> <p>また、授業中に紹介・指摘される日タイにおける文化的・言語的な共通点及び相違点について、配布資料や参考書を参照し、復習することで、日本とタイのみならず、グローバルな観点・視野も広げてもらいたい。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>特に定めない。(講師によるプリントや資料を配布予定)</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『タイを知るための60章 エリア・スタディーズ』綾部恒雄、林行夫 著 (明石書店)</p> <p>『デイリー日タイ英・タイ日英辞典』宇戸清治 監修 (三省堂)</p> <p>『今すぐ話せるタイ語 入門編』水野潔 著 (東進ブックス)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点 20% (クラス活動 10%、勉強態度 5%、表現力 5%) ・課題 20% ・中間テスト 25% ・試験 35%
<p>8 その他 (Other)</p> <p>本講義の受講をきっかけにタイないし東南アジアへの関心を高め、在学中に同地域へ留学するなどして、卒業後には日本とアジアを結ぶ実務型リーダーとして活躍することを目指してもらいたい。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
東南アジア文化・専門集中講座 (アテネオ・デ・マニラ大学)	1～4年	夏期集中	2単位	その他	菊地端夫
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>本講座は、アジア・ASEANに関する基本的知識や実戦的な英語力の習得を目標に、フィリピンを代表する名門校、アテネオ・デ・マニラ大学での短期研修を行うものである。現在、日本企業から非常に注目されているフィリピンでの約3週間の短期研修と、日本における事前・事後の学習によって、フィリピンを中心とするASEAN地域の政治経済、社会、文化等への基本的・実戦的理解を深める。</p> <p>日本とアジアをつなぐ「実務型リーダー」として将来、メーカー、商社、金融機関など実社会で活躍するためのスキルを習得し、アジアから日本と世界を展望するグローバルな視野を養う。同時に、日常の学習や実社会で役立つ実戦的な英語力を身に付けることを目指す。</p>					
<p>2 授業内容 (Course Contents)</p> <p>【事前学習】 2019年6月21日(金) 18時～19時40分 和泉キャンパス メディア棟 M512教室 アジア・ASEANの概要を日本経済・日本企業の戦略と関連付けながら学ぶ。現地の短期研修について学習する内容を概観するとともに、渡航前後の留意事項、異文化適応、現地での安全対策などを理解する。またレポート課題の内容・期限についても説明する。</p> <p>【短期研修】</p> <p>(ア) 派遣先教育機関 アテネオ・デ・マニラ大学</p> <p>(イ) 東南アジア文化・専門集中講座の期間および日程 2019年8月18日(日)～9月7日(土) 予定</p> <p>(ウ) アテネオ・デ・マニラ大学における学習内容 アテネオ・デ・マニラ大学において、のフィリピンや東南アジアの文化・社会に関する特別講義(使用言語: 英語)を受講するほか、同大学付属語学学校 Ateneo Language Learning Center (ALLC)が実施する、英語コミュニケーション力向上を目的とした英語授業(約60時間)に参加することで、東南アジア地域に関する専門知識と実践的な英語力を養います。オールドマニラシティツアー、歴史・美術館ツアーなど様々な課外活動が予定されています。また、現地学生との交流を目的とした異文化交流会やスポーツイベントなども開催される予定です。</p> <p>【事後学習】 2019年9月20日(金) 18時～19時40分 和泉キャンパス メディア棟 M512教室 短期研修の内容補足及び本講座の最終総括をおこなう。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員 約15名(最少催行人数10名) ※ 受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する(選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する)。 ※ 最少催行人数に満たない場合は催行を中止するか、研修費用を変更して実施を検討します。</p> <p>(2) 履修要件 TOEIC (IP含む) 400点 (TOEFL iBT41点, TOEFL ITP435点, IELTS5.0, 実用英語技能検定試験準2級, 本学</p>					

<p>における前年度英語科目の成績評価係数2.3)以上に相当する英語力を有することが履修要件。</p> <p>9月卒業予定の学部4年生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認めらる)。</p> <p>(3) 費用 短期研修参加費として約24万円程度(現地研修費、滞在費、航空運賃、ビザ取得費を含む)の負担が必要(ただし、成績要件など一定の条件を満たせば、JASSO短期奨学金7万円の利用による負担軽減が可能)。 参加費用は為替等の影響により変動する可能性がある。 費用を含むプログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/japanasean/index.htmlを必ず確認すること。</p> <p>(4) その他 所属学部・学年に拘らず、意欲のある学生の受講を歓迎する。 また、日頃から新聞記事やニュースなどに触れ、アジアに関する現実の動きに関心を持ち、講座内容と関連付けて考える習慣を身に付けてほしい。</p>
<p>4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparations and Review)</p> <p>留学の成果は事前準備で決まるので、教科書のほか、下記6参考書の内、最低1冊以上を熟読し、同国の文化、社会、外交など基本情報を学習するとともに東南アジア域内における同国の立ち位置及び自国との関係について理解を深めておくこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>『消費大陸アジア: 巨大市場を読みとく』川端基夫(ちくま新書, 2017)。事前学習日まで購入のこと。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『フィリピン—急成長する若き「大国」』井出穰治(中公新書, 2017) 『バナナと日本人: フィリピン農園と食卓のあいだ』鶴見良行(岩波新書, 1982) 『入門 東南アジア近現代史』岩崎育夫(講談社現代新書, 2017) 『反市民の政治学: フィリピンの民主主義と道徳』日下渉(法政大学出版局, 2013)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、最終評価を行う。</p> <p>(1) 事前・事後学習への貢献度 (10%) (2) 帰国後に提出する最終レポートの評価 (20%) (3) 研修校における評価(提出物、試験など) (70%)</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>本講義の受講をきっかけにアジアへの関心を高めると同時に、英語力の向上を目指す。さらに卒業後は社会人としてアジア及び日本で活躍するため、メーカー、商社、金融機関などで、身に付けた実戦的な知識と能力を役立ててほしい。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
短期東南アジア実習 (タイ・ボランティア)	1～4年	秋学期 集中	1単位	その他	菊地 端夫
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>日本経済と企業活動にとって、業種を問わずアジアとの関係は緊密になり、その重要性は今後もますます高まると考えられる。こうした状況の下、企業、NGO、国際機関など多くの実務分野において、たくましい「現場力」を持って日本とアジアの懸け橋として活躍できる人材が求められている。</p> <p>本講座は、タイにおいて根付いたプロジェクトへの参加を通じ、地域の社会発展に貢献すると同時に、参加者が海外で、実社会経験を積み将来アジアで活躍できるような人材となることを目的としている。</p> <p>2019年度については、タイ北部のチェンライを中心に山岳民族（アカ族など）の村及びこれを支援するNGOの拠点に滞在し、約2週間のボランティア活動を行い、現地の人々との交流を通じて、異文化理解・適応能力の向上を図る。</p> <p>また、現地では、世界各国から集う他の参加者に交じり、英語を共通のコミュニケーションツールとして実務研修を行うことによって、実践的な英語力の向上を図る。さらに英語以外に、簡単なタイ語、山岳民族の言語、ジェスチャー、日本語などを交えて意思疎通を図る。</p>					
<p>2 授業内容(Course Contents)</p> <p>【事前学習（2回）】</p> <p>第1回目(2019年10月末頃 於：和泉キャンパス 予定)は、本講座全体の概要説明及び英語コミュニケーション能力のテストを行う。</p> <p>第2回目(2020年1月初旬頃 於：和泉キャンパス 予定)は、ボランティア活動に参加するための準備として、現地の文化、滞在方法、プロジェクトの目的や現地活動の概要について理解するとともに、海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを学ぶ。</p> <p>【ボランティア実習（約2週間）】</p> <p>タイ北部の山岳民族（アカ族など）の村などで活動するNGO等において、下記分野を例とした補佐的業務に約2週間従事する。</p> <p>2020年2月中旬～2020年2月下旬実施予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 山岳民族支援プロジェクトの手伝い - 村のコミュニティホールの建設や修繕 - 太陽電池設備の設置、学校での手洗い場やトイレの建設 - 学校や村のコミュニティでの日本語・日本文化紹介 など <p>※宿泊先施設の設備は、男女別滞在、シャワー（水）、トイレ（手動洗浄）である。</p> <p>※現地での滞在先は受入団体が用意する宿泊施設またはホームステイである。</p> <p>【事後学習】 2020年3月24日火曜 於：和泉キャンパス 予定</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外実習の成果をまとめたレポートを報告する。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員</p> <p>20名（最少派遣人数10名）</p> <p>※ 受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する（選考結果は、申</p>					

<p>込期間終了後に別途メールまたはOh-o! Meiji システムで通知する)。</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>TOEIC (IP 含む) 400点 (TOEFL iBT41点, TOEFL ITP435点, IELTS5.0, 実用英語技能検定試験準2級, 本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 以上に相当する英語力を有することを履修の目安とする (スコアの提出は求めない)。</p> <p>実際の英語コミュニケーション能力を第1回目の事前学習で実施する英語力テストによって測定する。</p> <p>なお、TOEIC等のスコアにかかわらず、同テストにおいて十分なコミュニケーション能力があると判定された場合に参加を許可する。</p> <p>3月卒業予定の学部4年生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認める)。</p> <p>(3) 費用</p> <p>短期研修参加費として約29万円程度(滞在費, 食費, 研修実施にかかる現地交通費, 往復航空運賃諸費用を含む)の負担が必要(ただし, 成績要件など一定の条件を満たせば, JASSO 海外留学支援奨学金7万円の利用により負担軽減の可能性あり)。</p> <p>参加費用は為替等の影響により変動する可能性がある。</p> <p>プログラムの詳細については, https://www.meiji.ac.jp/cip/japanesean_jisshu/index.html を必ず確認すること。</p> <p>(4) その他</p> <p>必修ではないが, 「東南アジア理解講座(タイの言語と文化)」(春学期または秋学期 金曜5限)を履修することを強く勧める。</p>
<p>4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparations and Review)</p> <p>留学の成果は事前準備で決まるので, 下記6参考書の内, 最低1冊以上を熟読し, 同国の文化, 社会, 外交など基本情報を学習するとともに東南アジア域内における同国の立ち位置及び自国との関係について理解を深めておくこと。</p>
<p>5 教科書 (Textbook)</p> <p>『エビと日本人(2)暮らしのなかのグローバル化』村井吉敬(岩波新書, 2007) *第1回目の事前学習日までに購入のこと。</p>
<p>6 参考書 (Reference)</p> <p>『入門 東南アジア近現代史』岩崎育夫(講談社現代新書, 2017)</p> <p>『物語 タイの歴史: 微笑みの国の真実』柿崎一郎(中公新書, 2007)</p> <p>『バナナと日本人: フィリピン農園と食卓のあいだ』鶴見良行(岩波新書, 1982)</p> <p>『消費大陸アジア: 巨大市場を読み解く』川端基夫(講談社現代新書, 2017)</p>
<p>7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により, 最終評価する。</p> <p>(1) 事前・事後学習への貢献度 (20%)</p> <p>(2) ボランティア先における勤務評価 (50%)</p> <p>(3) 帰国後に提出する最終レポートの評価 (30%)</p>
<p>8 その他 (Other)</p> <p>本講義の受講をきっかけに東南アジアへの関心を高め, 在学中に東南アジアに対する理解と英語を一層向上させて, 卒業後には日本とアジアを結ぶ実務型リーダーとして企業, NGO, 国際機関などで活躍することを期待する。</p>

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
東南アジア実習 (タイ・インターンシップ)	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	菊地 端夫
<p>1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)</p> <p>日本経済と企業活動にとって、業種を問わずアジアとの関係は緊密になり、その重要性は今後もますます高まると考えられる。こうした状況の下、企業、NGO、国際機関、など多くの実務分野において、たくましい「現場力」を持って日本とアジアの懸け橋として活躍できる人材が求められている。</p> <p>本講座は、タイにおいて根付いたプロジェクトへの参加を通じ、地域の社会発展に貢献すると同時に、参加者が海外で、実社会経験を積み将来アジアで活躍できるような人材となるため、約4週間の国際協力インターンシップ(実務研修)を行うものである。</p> <p>2019年度については、タイの北部の都市であるチェンマイを中心にNGO等の活動の中から参加者が自身の専門や関心分野に沿って受入先を選定し、約4週間の実務研修を行う。</p> <p>また、現地では、世界各国から集う他の参加者に交じり、英語を共通のコミュニケーションツールとして実務研修を行うことによって、実践的な英語力の向上を図る。</p>					
<p>2 授業内容(Course Contents)</p> <p>【事前学習(2回)】</p> <p>第1回目(2019年10月末頃 於：和泉キャンパス 予定)は、本講座全体の概要説明及び英語コミュニケーション能力のテストを行う。</p> <p>第2回目(2020年1月初旬頃 於：和泉キャンパス 予定)は、インターンシップ活動に参加するための準備として、現地の文化、滞在方法、プロジェクトの目的や現地活動の概要について理解するとともに、海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを学ぶ。</p> <p>【インターンシップ実習(約4週間)】</p> <p>治安が良好なタイ北部の主要都市チェンマイ周辺で、各自の希望に基づいて、現地のNGO等が行う下記分野における補佐的業務に約4週間従事する。</p> <p>2020年2月上旬～2020年3月上旬実施予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 高齢化が進む村の復興支援活動 - 環境の維持・保全に関する活動 - インターナショナルスクールや幼稚園での英語教育 - 有名リゾートホテルでのゲストサービス - タイ王国動物園機構運営施設の広報活動 など <p>※現地での滞在先は民間寮または受入先が手配する宿泊施設を予定。</p> <p>【事後学習】 2020年3月24日火曜 於：和泉キャンパス 予定</p> <p>本講座の最終総括を行う。各自が海外実習の成果をまとめたレポートを報告する。</p>					
<p>3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)</p> <p>(1) 定員</p> <p>定員は特に定めない(最少派遣人数1名)</p> <p>(2) 履修要件</p> <p>TOEIC (IP含む) 400点 (TOEFL iBT41点, TOEFL ITP435点, IELTS5.0, 実用英語技能検定試験準2級, 本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3)以上に相当する英語力を有することを履修の目安とする(スコアの提出は求めない)。</p>					

<p>実際の英語コミュニケーション能力を第1回目の事前学習で実施する英語力テストによって測定する。TOEIC等のスコアにかかわらず、同テストにおいて十分なコミュニケーション能力があると判定された場合に参加を許可する(希望するインターン先との間で、Skype等により事前面接が実施される場合がある)。</p> <p>3月卒業予定の学部4年生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認める)。</p> <p>(3) 費用</p> <p>短期研修参加費として約40万円程度(滞在費、研修実施にかかる現地交通費、往復航空運賃諸費用を含む)の負担が必要(ただし、成績要件など一定の条件を満たせば、JASSO海外留学支援奨学金7万円の利用により負担軽減の可能性あり)。</p> <p>参加費用は為替等の影響により変動する可能性がある。</p> <p>プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/japanesean_jisshu/index.htmlを必ず確認すること。</p> <p>(4) その他</p> <p>必修ではないが、「東南アジア理解講座(タイの言語と文化)」(春学期または秋学期 金曜5限)を履修することを強く勧める。</p>
<p>4 準備学習(予習・復習等)の内容(Preparations and Review)</p> <p>留学の成果は事前準備で決まるので、下記6参考書の内、最低1冊以上を熟読し、同国の文化、社会、外交など基本情報を学習するとともに東南アジア域内における同国の立ち位置及び自国との関係について理解を深めておくこと。</p>
<p>5 教科書(Textbook)</p> <p>『エビと日本人(2)暮らしのなかのグローバル化』村井吉敬(岩波新書, 2007) *第1回目の事前学習日までに購入のこと。</p>
<p>6 参考書(Reference)</p> <p>『入門 東南アジア近現代史』岩崎育夫(講談社現代新書, 2017)</p> <p>『物語 タイの歴史:微笑みの国の真実』柿崎一郎(中公新書, 2007)</p> <p>『バナナと日本人:フィリピン農園と食卓のあいだ』鶴見良行(岩波新書, 1982)</p> <p>『消費大陸アジア:巨大市場を読み解く』川端基夫(講談社現代新書, 2017)</p>
<p>7 成績評価の方法(Grading and Evaluation)</p> <p>以下の諸点により、最終評価する。</p> <p>(1) 事前・事後学習への貢献度 (20%)</p> <p>(2) インターンシップ先における勤務評価 (50%)</p> <p>(3) 帰国後に提出する最終レポートの評価 (30%)</p>
<p>8 その他(Other)</p> <p>本講義の受講をきっかけに東南アジアへの関心を高め、在学中に東南アジアに対する理解と英語を一層向上させて、卒業後には日本とアジアを結ぶ実務型リーダーとして企業、NGO、国際機関などで活躍することを期待する。</p>